

宿縁

一月号

浄土真宗
本願寺派

康

TEL 〇四七―三七二―〇二九二
FAX 〇四七―三七二―〇二六二

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

日に日に

新たななり



どなたも初めての二〇二四年の一月一日を迎えました。

どこかの大学の校歌に「日に日に新たに」で始まる歌詞があります。再三その学校の体質が問題となって世間の非難を浴びていますが、この最初の歌詞はなんびとにも日々を過ごす上に常に心がけていくべきことだと思えます。

「新陳代謝」という言葉をご存じでしょう。

私たち生き物は、ごく当たり前のように食事をして栄養を体に取り込み、その栄養が入ってくる代わりに、体に留まっていた古い物質が外に排出されます。このように、体内で新しい物質と古い物質が交替することを新陳代謝と表すことができます。

こうした体の仕組みは普段意識をしませんが、日々それが繰り返されているのです。ところが、心が多くそのことを否定しているのです。

仏教は私たちの苦悩の根源を「三毒の煩惱にあり」と教えています、貪り・怒り・愚かさといって、自分にとって好ましいと思うことがいつまでも続き、そのことに執われを持つことです。怒りとは、思い通りにゆかないから裏にはいつも腹立たしさを抱えているのです。愚かさとは、自然の道理を受け入れないからぐるぐる不安定な世界を果てしなくめぐっているのです。

残念ながらあなたのだこかに、若きものはいつか衰え、健康であってもいつかは病に侵され、生あるものはやがて死を迎えるという言葉だけを「無常」と勝手に解釈していませんか。またそのことを教えるのが仏教だと思っていまいませんか。

だから仏教には魅力を感じないのです。自分の生き方に張りを失うのは当然です。仏教はそんな思い込みをぶちこわして、「新陳代謝」の喩えの如く、吾がいのちの

根源は、限りなく新しい世界を生み出していることを教えてくれているのです。

知らぬふりをしていても、夜眠っていてもこの体は新陳代謝を繰り返している、それを生かされて生きているといえます。

だから昨日の私と今日の私は違うのです。去ったものの中に、新しい今のいのちが生まれ出てきたのです。

思い込みほど怖いものではありません。仏教の説く教えは固定的なものではありません。私たちはその真実といわれる教えをどう受け止め、活かしていくかが大事なのです。答えはこの私が出していかなければ、絵に描いた餅で、飾り物を眺めているばかりです。

宇宙にあつて太陽は地球上の生物を構成している星ですが、少しもとどまっているものではないでしょう。盛んに活動しているでしょう。だから地球の植物や木々も、その恩恵にあずかって生育し美しい自然界を生み出しているのです。

太陽という不断のはたらきがあるから、そのはたらきをこうむって地上には植物の芽が生え、若木となり、蕾となってやがて花を咲かせ、立派な木に成長し、やがては朽ちていきますが、それで終わりではありません。

新たな生への営みに参加していくのです。人間という生き物は自分の目に映ったもののしか見えないし、そのみは確かだと思えますが、結局はその本質を見通す眼がないのです。だから阿弥陀仏といっても固定的にしか見ませんから、どこにしているのか、どんな形をしたものなのかと追い続けて、固定観念に閉じ込められ、むなしく終わるのです。

サン＝テグジュペリの著書「星の王子様」

の中で、小さな星からやってきた王子様が砂漠に不時着した飛行士に語る有名な言葉を思い出します。

「肝心なことは目に見えないんだ。」

私たちの命は、今この個体という形式のなかに閉じ込められています。そして、たいていそういう自分がまもなく、消えてなくなるように思っています。これはとりもなおさず、命に対する疑いです。けれども仏さまの教えを聞いたら、それは私たちの考え違いだということがわかるのです。あなたはこの世で長生きしたいだけ思っているかもしれないけれども、あなたのなかの命はそんなこととは思っていない。あなた自身の命自身は、そのような長生きだけでは決して満たされないような要求を持っています。それは、浄土へ生まれたいという要求です。個体以上の生に出ようという要求です。

たとえば、一人の赤ちゃんの誕生を考えてみましょう。赤ちゃんがなぜ胎児から個体になるのかというと、母の胎内に閉じ込められた状態でおれなくなったからです。赤ちゃんは自分の意志でも、母親の意志でもなくて、赤ちゃんのなかに生きている命そのものの要求なのだとかせていただきました。

お浄土に生まれるということは、命が命それ自身に還っていくということです。自我という小さな個体制のなかに閉じ込められている命が、個性性の枠を突破して無限な、枠のない真の命そのものに還ることをいうのです。

だから仏の教えを聞き仏道を歩む人は、お浄土に還るといい、死ぬとはいいいません。

【寺灯雑記】

○四年ぶりの年末懇親会で公開寄席

12／10

じつに四年ぶりの開催となった婦人会と壮年会合同での年末懇親会、今回は特別ゲストとして落語家の三遊亭歌奴師匠に来ていただきました。

太田壮年会会長が以前からお知り合いということで、懇親会を前に本堂で公開寄席が開かれました。

お話しいただいたのは、お酒好きの前住職を知ってか知らずか、名作「試し酒」です。さすが真打、巧みな話術と次第に酔っていく緻密な描写で、普段はお念仏の声が響く本堂が笑い声で包まれました。参加者の中には、初めて生で落語を聞かれた方もいらつしやつて貴重な体験となりました。

懇親会では、婦人会・壮年会の若手会員(中には未来の会員も?)からベテラン会員まで老若男女が一堂に会し、お酒やゲームをとおして懇親を深め、今年一年の労を互いにねぎらいました。



○2023年最後の清掃奉仕

12／23

年内最後の清掃奉仕が行われ、15人ほどがご参加くださいました。本堂や庫裏、開法会館など隅々までキレイにしてくださいました。寒いなかでの作業、誠に有難うございました。

○仏飯米寄進

＊橋口秋子様

【仏事Q&A】

Q、浄土真宗ではお正月をどのように迎えるのですか？

浄土真宗の多くのお寺で元旦会(がんたんえ)、修正会(しゅしょうえ)が行われます。元旦会は「元旦の法要」という意味です。新年を祝うとともに、今年もお念仏申す人生を歩む決意を新たにします。

ところで、初詣では、神さまや仏さまの前で手を合わせ、自分の願いが叶うよう祈りを捧げるものだと思います。人が多いようです。私たちは願いが叶ったならばご利益(りやく)があったと思います、さらに別の願いが起こってきます。どれだけ願いが叶ったとしても、満たされることはないでしょう。反対に願いが叶わなかったならば、「こんなに祈っているのに」という思いにもなります。願いが叶っても叶わなくても、この私は自己中心的な思いから抜け出すことはできません。

浄土真宗は、私の願いを叶えてもらうのではなく、阿弥陀如来の願いを聞く教です。阿弥陀如来は、苦しみ悩み傷つけあ

私たちのことを決して見捨てることなく、真の安らぎを与えようと願われつづけています。私の願いを叶えようと祈る人をも救おうとはたらきつづけている仏さまです。一年の始まりを元旦会にお参りし、共に阿弥陀如来に願われている人生を確認したいものです。

『仏事Q&A 浄土真宗本願寺派』

【二〇二四年(令和六年)年回表】

- ＊一周忌 2023年(令和5年)
 - ＊三回忌 2022年(令和4年)
 - ＊七回忌 2018年(平成30年)
 - ＊十三回忌 2012年(平成24年)
 - ＊十七回忌 2008年(平成20年)
 - ＊二十三回忌 2002年(平成14年)
 - ＊二十五回忌 2000年(平成12年)
 - ＊二十七回忌 1998年(平成10年)
 - ＊三十三回忌 1992年(平成4年)
 - ＊五十回忌 1975年(昭和50年)
- ＊先立たれた方を偲ぶとともに、私たちが真実のいのちに出遇わせていただくのがご法事です。

【法要・法座のご案内】

◎元旦修正会(初参り)

＊一月一日(祝) 朝八時より

- ・おつとめ 正信偈
- ・年頭法話 住職 前住職
- ・ご流盃

新年の事初めは家族揃ってお寺に参り阿弥陀さまにご挨拶致しますよう。

◎婦人会総会・新年会

＊一月十二日(金) 十一時

※一月は金曜日開催です。お気を付けください。

新会員を募集しています。寺友になりませんか。

◎常例法座

＊一月二十一日(日) 一時

講師：柏倉学法師(我孫子市真栄寺)

◎親鸞セミナー(無量寿経を読み解く)

＊一月二十七日(土) 二時～四時

一月から毎月第四土曜日(原則)の親鸞セミナーでは、釈尊が説かれた浄土三部経の内の仏説無量寿経を読み学びます。

親鸞聖人が「それ真実の教を頭せば無量寿経である」と示されたこの經典は、万人が救われる教えが説かれています。

易しく皆さんと学びたいと思いますのでぜひお出かけください。

尚テキストは本願寺出版社の「浄土三部経(現代語版)1200円+税」を用いますので購入希望の方はお寺までお知らせください。

◎壮年会総会・新年懇親会

＊一月二十八日(日) 三時

新しい仲間を募集しています。共に心をリフレッシュしませんか。

【二月の掲示板のことば】

卵の殻は破れても
自我の殻は容易に破れない